さよなら、ジョー…

JOE

あしたのジョー2

長いあいだジョーを応援してくれてありがとう

製作総指揮／梶原一騎

絶対にスケールが違う、モノが違う！

あえて「あしたのジョー2」の総指揮に当った立場から言わせて貰えば「断然」この作品は従来のTVアニメが劇場に移動したスタイルとは本質的に異なるのだ。

なぜなら――

その一。現在「あしたのジョー2」はテレビ（NTV系）でも放映中であるが、そのテレビ用とは別に劇場用は先行して製作されたこと。

その二。従って多くの部分が製作スタッフにとって二重の手間となり経費も莫大なかわり、劇場の大型スクリーンならではの迫力が満点であること。

その三。だから登場人物のセリフ、そして、若いファンには重要なムードづくりの要素である主題歌、サウンド音楽もテレビ用とは別個に編集、作曲されたこと。

その四。ちばてつや、高森朝雄（梶原一騎）の原作者コンビが、それぞれ監修、総指揮を担当して製作現場にタッチしているので、このコンビの夢であった「ジョーが真っ白に燃え尽きる……」劇的ラストのアニメ化が完全に劇場用効果を考えぬいて作られ、とかく従来ありがちだった原作のイメージ崩れがあり得ぬこと。

しかもジョーを愛し、ジョーで育ち、ジョーによって漫画文化への目を開かれたという現場の若いアニメーター諸君がノリにノッてくれて、このパーフェクト・アニメの登頂に挑んだ東京ムービー新社の藤岡豊社長いわく――

「演出の出崎氏はじめ若い連中が商売っ気ぬきで粘りぬいてくれるのは感謝の限りですが、おかげで経費も天井知らず……まさにうれしい悲鳴ですわ」

とにかく絶対の自信をもって贈れる、われらのジョーのフィナーレである！

再び帰らぬジョーの……。

STORY PART-1

あしたのジョー

「おっちゃん、泪橋を負け犬の
涙じゃない、厳しい精進の涙で、
逆に渡れといったのは
どこの誰だっけ………」

昭和55年3月8日(土)公開

東京下町、泪橋を渡った一人の若者がいる。彼の名は〝ジョー〟こと矢吹丈。地回りヤクザとの喧嘩で、身体を張ってそのジョーを救った男がいる。元プロボクサーの丹下段平である。この出逢いによって、二人は後にお互いの人生を、大きく左右していく……。

この事件でジョーは鑑別所に送られた。かつての情熱を取り戻し、ジョーに全てを賭ける段平は、ボクシングの基本をハガキで送り続けた。「あしたのためにその1」「その２」……。鑑別所でのリンチで、ジョーは巨大なボス、マンモス西を難なく倒した。以来、二人は堅い友情で結ばれる。

ジョーは西とともに少年院へ送られた。そこで、脱走を企てようとしたジョーを、たった一発のパンチで倒した男がいる。宿命のライバル、力石徹である。ジョーの初めての屈辱。ジョーの胸に力石打倒の闘志が燃えた。反省房でたった一人のトレーニング後、再び相まみえる機会がきた。特設リングでの真昼の対戦。力石圧倒的な優勢の中で放たれた、ジョーの必殺クロスカウンター。二人は同時にマットに沈んだ……。

出所後、令嬢白木葉子の祖父のジムに所属した力石は、プロボクサーとして脚光を浴びていた。ジョーにも出所の日がきた。待っていたのは「丹下拳闘クラブ」の看板である。新しいあしたをめざして、ジョーの肉体は鍛えられ、精神が磨かれていった。

プロボクサーとしてのジョーは、デビューから快進撃を続けた。そしてついに、因縁のウルフ金串戦を独特の〝ノーガード戦法〟で勝ったジョーに、力石からの挑戦が告げられた。力石の狂気とも思える減量、ジョーの執拗な特訓。

宿命の対決のゴングが鳴った。力石のカミソリアッパーがジョーの顔面をとらえる。頬に血がつたう。１に、２に……ジョーの形勢は不利。ジョーの反撃。ジョーの一打が力石に炸裂。倒れざまロープに頭を強打する力石。

最終ラウンド、力石の勝負を賭けたアッパーがジョーを見舞った。顔がゆがみ、マットに沈んだジョーは、立ち上ることはできなかった。

終った。ジョーが爽やかな微笑を浮かべ、リング上の力石に手を差しのべた時、それに応えようとした力石の身体が倒れた。

力石が死んだ――。

STORY PART-2

あしたのジョー2

「カアッと真っ赤に燃えあがるんだ。
そして、あとには真っ白な灰だけが
残る…そんな充実感は
拳闘をやる前にはなかったよ」

昭和56年7月4日㈯公開

その日、ドヤ街は大騒ぎ。力石の死から一年ぶりで、ジョーが丹下ジムに帰ってきたのである。すぐさまジョーのトレーニングが始まった。

ジョーは再起第一戦から、ボディ連打で連勝を続けた。しかし、全日本バンタム級チャンピオン、タイガー尾崎戦では、ボディをブロックされ、TKO負けする。タイガー尾崎は、ジョーには力石戦の後遺症から、テンプルへ打てなくなっていたのを見抜いていたのである。ジョーは負け続けた。悲痛なジョーの叫びが、リングを駆けめぐった。

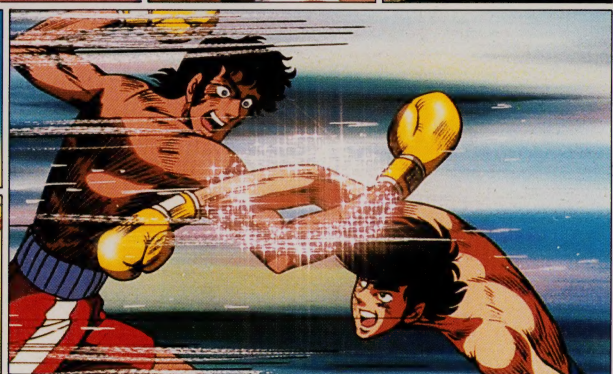
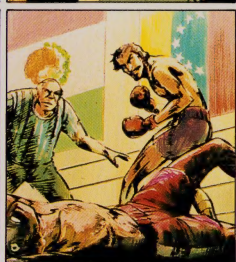
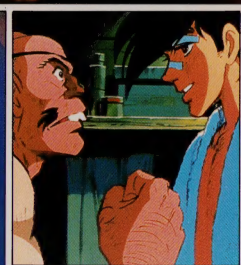
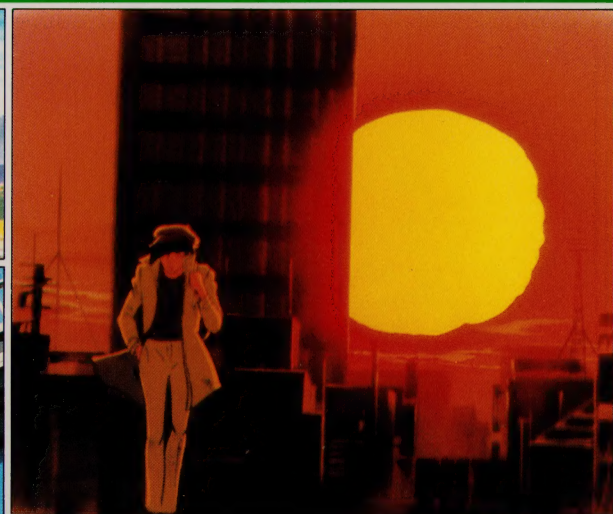
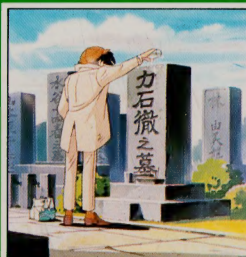
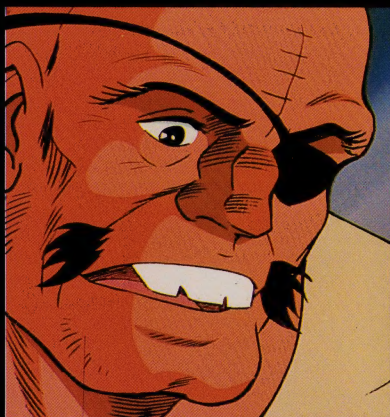
そんなある日、ジョーは白木葉子が招請した無冠の帝王、カーロス・リベラを見て、力石に初めて会った時のような野性の血が騒ぐのを覚える。ジョーはカーロスと試合をすることになった。闘いの中でジョーは燃え、テンプルを強打できるようになる。文字通り死力を尽しての闘いの結果、判定は引分けだった。

カーロス戦から2ヶ月後、ジョーは葉子から、カーロスが世界チャンピオン、ホセ・メンドーサに、たった一発でKOされたと聞いてガク然とする。ジョーはターゲットをホセ・メンドーサにあてた。

東洋大平洋チャンピオン、金竜飛戦をかわきりに、ハリマオ戦をへて、ついに世界チャンピオンに挑戦する日がやってきた。

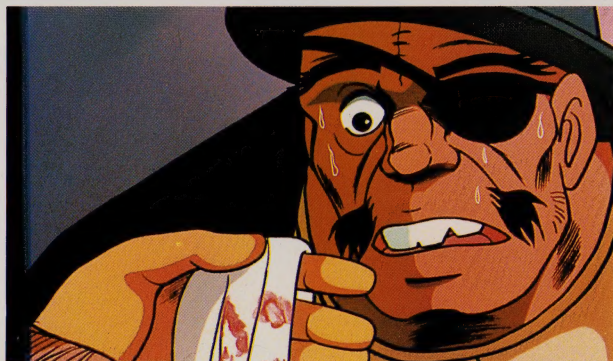
運命のゴングが鳴った。ジョーのパンチは虚しく空を切るばかり。カーロスを一撃で倒したホセの必殺コークスクリューパンチがジョーの顔面に炸烈。ホセの鋭いパンチが何回もヒットし、何回もダウンするが、それでもジョーは起き上ってきた。 ホセに恐怖の表情が浮かぶ。 ラウンドが進む……。「まだ燃えつきていない、まだ……」と闘いながらジョーの脳裏に、少年院時代の思い出が、ドヤ街の連中が、力石が、カーロスが、段平、西、紀子、それに葉子が通りすぎた。

迎えた最終ラウンド。両者激しく打ち合い、ダウンの応酬……終了のゴングが鳴った。「このグローブもらってくれ、あんたにもらって欲しいんだ……」ジョーは激闘を物語る血ぞめのグローブをはずし、リング下にいる葉子に差しだした。

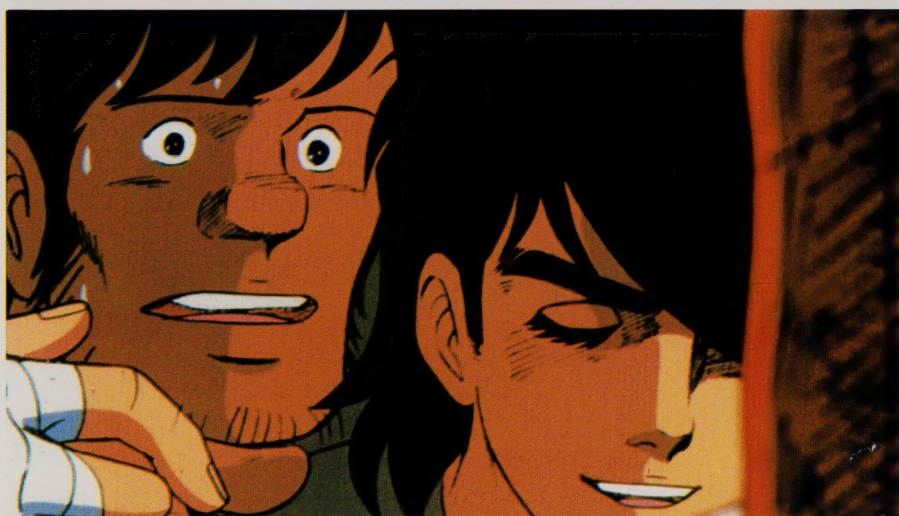
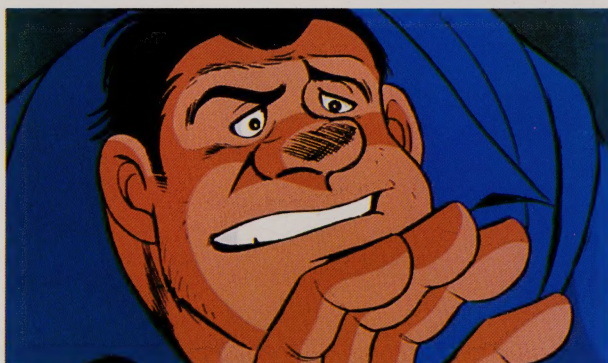
判定はホセに上った。判定を聞いているのかいないのか、青コーナーには、目を閉じ口元にかすかな笑みを浮かべ、真っ白に燃えつきたジョーの姿があった――。

丹下段平(おっちゃん)

あしたのジョー／青春の仲間たち

「ジョー、おまえはボクサーに
なるんだ、おれと組んで
拳闘をやるんだ。…」

段平はこりたふうもなく、今度は肩に手をかけてきた。その瞬間、丈の右足が走り段平は転倒した。
「だから、よせっていったろう……。人に金をたかるのは、素面のときにするんだな」
段平はまったくめげず、再び手を差し出した。丈は顔色を変えた。
「生酔いの酒のかわりに、いいものをフレセントしようか」
丈の左右のハンチが段平のいかつい顔めがけて、突きだされた。が、すべて段平に軽く受けとめられてしまう。
魅せられたように段平は口を開いた。
「どうだ、おれと組まないか。そしてボクシングをやってみないかね」
「ボクシングだと？」
「ああ、拳闘よ。おまえなら、いい線いくこと間違いなしだ。この丹下段平がコーチを引き受ければ、な」
「……」
「なあ、悪いことはいわんから、おれと組んでみろや。そして……」
段平は、同じことを重ねてさらに熱っぽく言った。
丈はそれに答えず、そのままバッグをつかむと早足で去っていった。
段平は、丈の後ろ姿を見送った。その表情には、確かな手応えがえられた、という自信の色があった。

西　寛一（マンモス西）

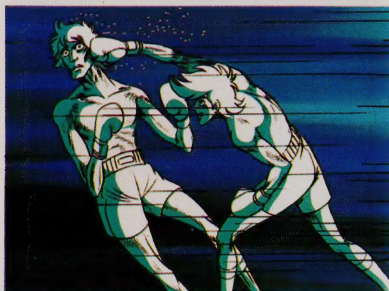
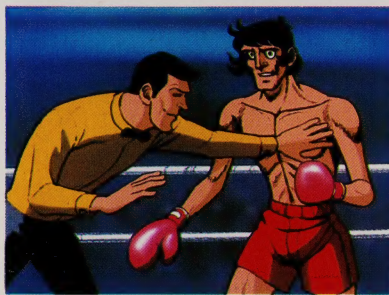
あしたのジョー／青春の仲間たち

「ジョーのパンチは、たしかに
生きちょる。せやけど、あいつ、
わいの腹しか攻撃せえへんかった」

「おれにも喰わせろ」
　と丈がむっくり身をおこした。
「もう目をさましやがるとは……」
「ねじりん棒は、腹のたしにならなかったんでな」
　丈は涼しい顔で言った。
「新入りは、初日の飯はボスに差しあげるのがしきたりなんだ。憶えとけ」
　一人が言った。
「ボスはどいつだ、浪花のデブか」
「吐かしよったな」
　巨漢の西がハシを置いた。
　ほかの者たちがジョーに襲いかかった。
「同じ手は二度と喰わん、というのが、おれの信条でね」
　あっという間に全員を叩き伏せた丈。
「さて、差しの勝負といくか」
　巨漢のボス、西がすごい形相で向かってきた。
「……そうだ、せっかくの機会だし、段平おやじの通信教育を実験してみるか……肘を左脇から離さない心がまえで、やや内角をねらい……」
　えぐりこむようにして放った丈の左ジャブは、西の顔面を正確にとらえた。
「打つべし、打つべし」
　ジャブ一辺倒で打ちまくったあと、右の一打で西を床に沈めた。
「ジャブ三発に続く右のパンチはその威力を三倍にするものなり……か。なるほど」
　丈は満足の笑みを浮かべて、そう呟いた。

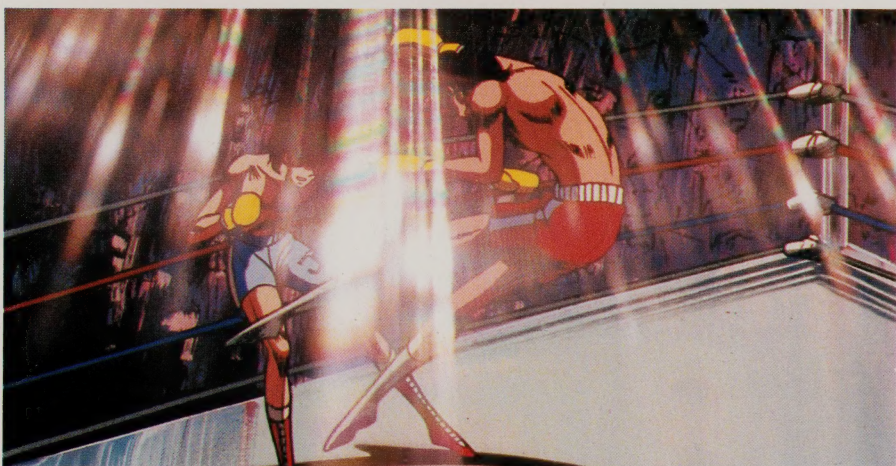
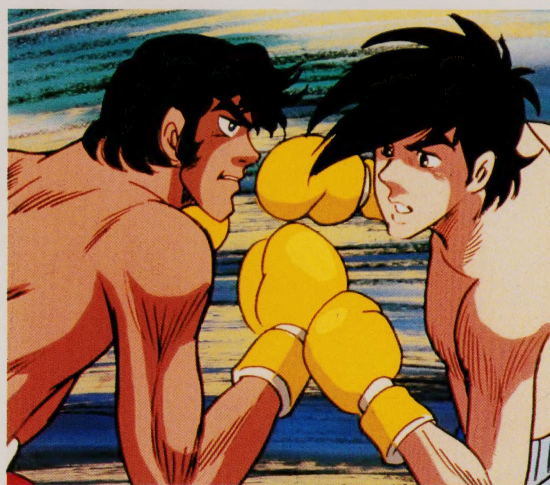
力石　徹

あしたのジョー／青春の仲間たち

「お嬢さん、栄光の道を
胸を張って歩きたいからこそ、
このジョーとの勝負にこだわるんです」

控え室でジョーがマッサージ台の上にひっくりかえっていると、ドアがあいた。記者たちが立っている。
「なんだ、あんたたちは。部屋を間違えたんじゃないのか。敗者にはなにもくれてやるな、それがこの世界の掟じゃなかったのかね」
「実は、力石選手が……」
記者の一人が、沈痛な表情で言った。
「たったいま、死んだんです」
「なにっ」
ジョーは飛びおきた。
「矢吹君、第六ラウンドにきみが放ったテンフルへの左フックね、あれでダウンしたとき、ロープで後頭部を強打したため、脳内出血で……」
ジョーは部屋を飛びだし、力石の控え室へ走った。中央に置かれた白布のかけられた台を、葉子、幹之介、そのほか十数人が囲んで黙禱をささげていた。
ジョーは手をのばして白布をとった。生前そのまま、おだやかな力石の死顔。
白布を握りしめた丈の手が震えだし、目が血走る。
「……馬鹿野郎」
力石を見つめたまま、ジョーはそう叫んだ。あまりの悲しさに、力石に対しても自分自身に対しても、言いようのない怒りを感じていたのだ。
ジョーは、周囲の者たちを完全に無視して同じ言葉をくり返し叫び続けた。

カーロス・リベラ

あしたのジョー／青春の仲間たち

「ジョー・ヤブキハ総力アゲテ、
モテナシテヤルベキ男ダカラナ、
イロイロナ意味デ…」

「一旦不利となれば、傍目なんぞまるで気にせず、あられもなく逃げまくって身を守る、ああいうのは、それこそ回復したあとが恐いんだよ」

丈はさばさばした表情を見せた。

「もはや、お互い手負いの野獣同士だ。理屈抜き、小細工抜きで、とことんかみ合うしかないよ。存分に喧嘩をしかけてやるさ」

五ラウンド開始のゴングが鳴った。

リベラのパンチのあとの肘打ちを顎に受けた丈が、それを真似てかかろうとすると、いきなり肘打ちが飛んできたのだ。ジョーはとっさに頭突きの返礼を見舞った。

それを境にルール無視、レフェリー無視のすさまじい倒し合いがはじまった。なぐる、ける、体当たりをぶちかますといった反則の応酬だった。

「カーロスガ狂ッテシマッタ。ワタシト二人デ磨キアゲタ高度デ華麗ナテクニックノスベテヲ忘レ、ベネズエラノ貧民街デ喧嘩ニ明ケ暮レテイタ、チンピラ時代ニ戻ッテシマッタ。ナゼダ、ドウイウコトナンダ！」

とリベラのマネージャのロバートが叫んだ。

「野郎、明日のために、その一も、二も、三も忘れよって……」

段平も頭をかかえた。

が、大観衆は、その二人の死闘に、ボクシングの原点を見て、熱い拍手と声援をリングにあびせたのだった。

数分後、二人は血に染まって転がっていた。

ホセ・メンドーサ

あしたのジョー／青春の仲間たち

「ジョー・ヤブキハ…カタワニ
ナッタリ…死ンダリスルコトガ、
オソロシクナイノカ…?」

「サイドステップ一辺倒の防御法、あれはお前の目の異常に気づいた証拠だな」

六ラウンド終了後、コーナーに戻ったジョーに段平が言った。

「気づいたね……片目の利もこれまでだ」

「それじゃ、おまえ……」

「情けない面(つら)をするなよ。うまく見えないのは、おっちゃんと同じ片方だけさ。なんとかなる」

と、まだ余力のある感じだったが、七ラウンド、二度のダウンを奪われた。

「なんのかんのいっても、やっぱり奴は強い……。さっきは打たれ弱いときめつけたが、そうでも自分に言いきかせなきゃ、やりきれなかったから、とでもいうとこかな……」

自嘲的に丈は言った。

「もうよそう。あの偉大なチャンピオンを相手にここまで、立派に戦ったんだ。おしまいにしたからって、誰がおまえを……」

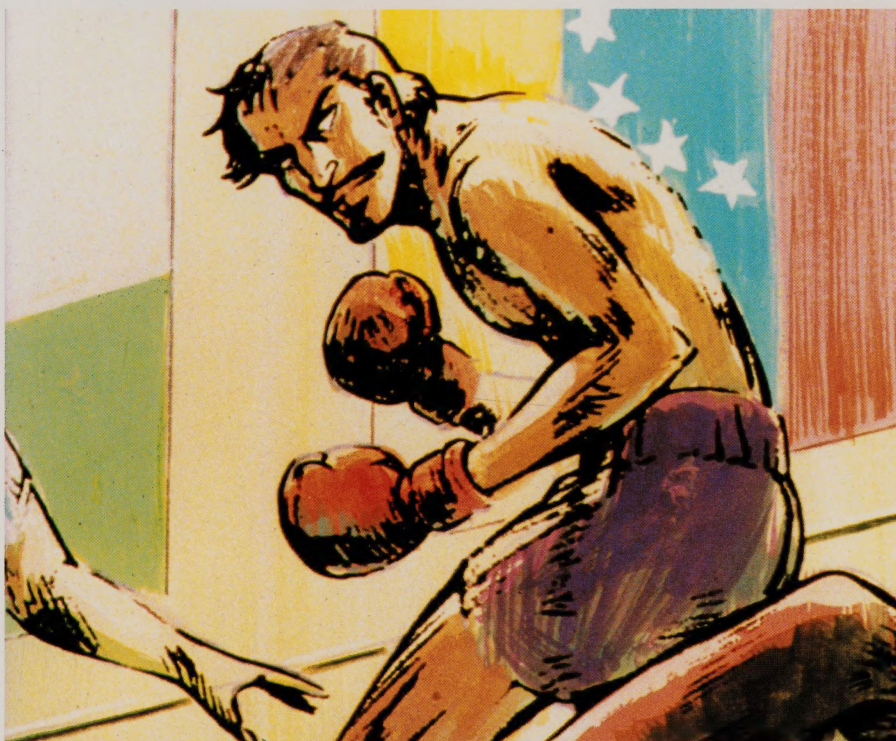
「そうはいかない。おれはまだ、まっ白にはなりきっていないんだ」

「真っ白？」

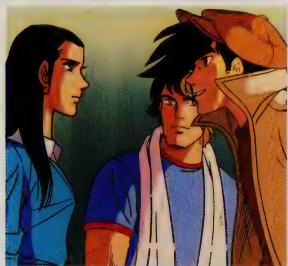
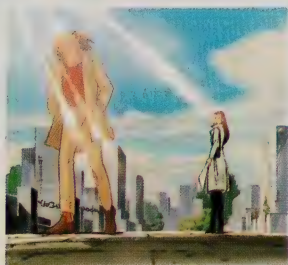
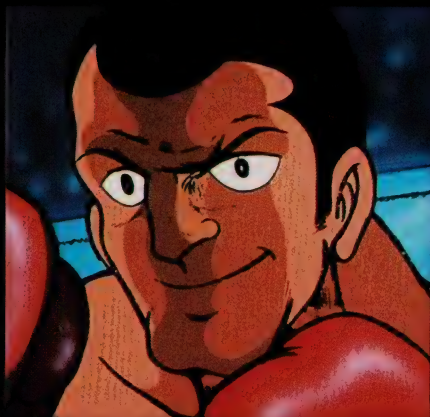
「燃えカスがくすぶっているんだよ。ブスブスと音をたててな」

ジョーは､「頼む」と頭をさげた。

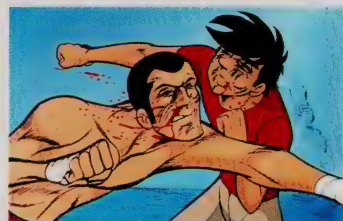
「なんにもいわず、真っ白な灰になるまでやらせてくれや。なあ、おっちゃん……」

ジョーがわしに頭をさげて頼むなんて、初めてじゃないか、と思いながら、段平はただうなずくしかなかった。

白木葉子

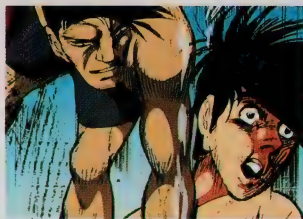
あしたのジョー／青春の仲間たち

「さあいいわね、力いっぱい打つのよ！
渾身の力をふりしぼって…
悔いのないように、しっかり打つのよ！」

「あなたの全身はパンチドランカー症状にむしばまれています。これはドクター・キニスキーの診断であり、厳然たる事実なのよ」
「だから、どうした」
「その体でリングに上がり、あのメンドーサの猛威にさらされれば、一生を廃人として送ることになるのは間違いないわ。いまになって試合を中止すれば、莫大な違約金をチャンピオンや主催者側に支払わなければならないでしょう。でも心配ないわ、それは全額、わたしが負担します。ですから、お願い、いますぐ引退を発表して……」
「いろいろ言ってくれるけど、よしな。無駄だ」
「まさか知っていて、廃人になる運命を覚悟の上でリングにあがる、というのではないでしょうね」
「ご丁寧な忠告を聞かせてもらうまでもなく、以前からうすうす知ってはいたさ、自分の体だもんな」
「……後生だから、リングへ上がるのだけはやめて……」
「心配してくれているらしいことはわかった。光栄だね」
「好きなのよ、矢吹くん、あなたが！」
「リングには世界一の男、ホセ・メンドーサがおれを待っている。だから、……行かなくちゃ……」
ジョーは明るい表情でそう言うと、控え室から出ていった。

ウルフ金串

「矢吹って奴は、まあいってみれば
おれのボクシング人生で変な具合に蹴つまずいた、
ただの石ころにすぎなかったってことさ」

丈はウルフの前に立ちはだかると、サインをねだった。しつこくねだる丈に負けて、ウルフがサインを渡すと、丈はゲラゲラ笑いだした。「これが字かねえ」「なに」
「ミミズが這っているのかと思ったぜ。ひでえや、こりゃ」
気色ばむウルフを会長の大高が止める「会長さんべつにとめてくれなくてもいいんだぜ。ボクサーは字など上手くなくてもいいようなものだが、こうひどいとなると、肝心のパンチのほうも、まず大したことはないだろうからと丈がいうのを聞いて、ウルフ金串は完全に血が頭にのぼった。
「会長、なにがなんでも、こいつはやらせてもらいますぜ」丈の鼻先へ、バンテージを巻いただけのウルフの右がのびてきた。
同時に丈の左がのび、腕と腕が交差した。

金　竜飛

「減量苦?それは過去に腹いっぱい
喰って、だらしなく胃ぶくろを
ひろげてしまった奴のぜいたくさ…」

「金は喰えなかったにすぎぬが、力石の場合は自分の意思で喰わなかった……　飲まず喰わずで、それゆえの死と引きかえに、力石は男の闘いをまっとうし、おれとの奇妙な友情に殉じた。なんのことはない、同じ条件下にあって自らすすんで地獄を克服し、人間の尊厳をつらぬき通して死んでいった男を、おれは身近に知ってたんじゃないか……」
丈はにわかに反撃に出た。
「自分だけが大変な地獄をくぐってきたかのように楯にとり、しかもそいつを非情な強さとやらのよりどころとしているようでは、はっきり力石に劣るぜ。そんなおまえさんに負けたとあっちゃ、彼に対して、なんとも申し訳が立たないんだよ」
「力石よ、おまえのくれたベルトだぜ……」
ジョーは、死闘のあととは見えないほど、晴れはれした顔でそう呟いた。

林　紀子(のりちゃん)

あしたのジョー／青春の仲間たち

「矢吹くんは、さみしくないの？
同じ年頃の青年が、それぞれ恋人をつくって
青春を謳歌しているというのに…」

「矢吹くんは、さみしくないの？　くる日もくる日も汗とワセリンと松ヤニの匂いがする薄暗いジムに閉じこもり、たまに明るいところに出るかと思えば、リングという檻のなか……。みじめすぎるわ。悲惨だわ。青春と呼ぶには、あまりにも暗すぎるわ！」
　紀子は堰を切ったようにそう言った。
「紀ちゃんの言う青春を謳歌するってこととはちがうかもしれんが、燃えているような充実感は何度も味わってきたぜ、血だらけのリングの上でな。そこいらの連中みたいに、ブスブスといぶりながらの不完全燃焼じゃない、ほんの一瞬にせよカァッと真っ赤に燃えあがるんだ。そして、あとには真っ白な灰だけが残る……。そんな充実感は拳闘をやる前にはなかったよ。わかるかい？」
「なんとなくわかる気がするけど、わたし、やっぱりついていけそうにない」
　と何かふっきれた表情で言った。

ドヤ街の人々

あしたのジョー／青春の仲間たち

ジョーは生まれて、このかた、
こんなに人からしたわれた事はなかった、
愛されたことはなかった。

ドヤ街の入口に泪橋とよばれる橋がある。かつてこの泪橋を渡ってやってきた人たちがいても、逆に渡っていった者はいなかった。
　ジョーたちは、その泪橋を栄光の未来に向かって渡って行く、最初の人間だったのだ。ドヤ街の大人たちにとって、"希望の星"であった。
　そして、サチ、太郎、ヒョロ松、キノコ、トン吉、チビ——子どもたちにとっては、ジョーはあこがれの兄貴だった。
　ジョーが試合に負けたといえば泣き、勝ったといえば笑う。
　そして、ジョーにとっても、もっとも心を許せたのは、このドヤ街であり、そこに住む人々だった。
　ドヤ街の人々、彼らはジョーの心のささえだったのだ。

知っているようで知らな

「この試合、おれには割が悪いぜ、弱音なんかじゃない。いってみれば、事実ってやつさ」

「ああ、そこにも人生はあるだろう。ほのぼのとした仕合わせってやつがよ。が、この矢吹丈には住めない世界だ」

「おれは、ひとりで歩くよ。おれの新しい道を、ひとりだけで歩く」

「驚いたねえ、あんたって女(ひと)には思いもかけないような運命の曲り角に待ち伏せしていて、ふいに、おれを引きずりこむ……。魔性の女っていうのかな、そういうのを」

「バンタムというところはな、あの力石徹が命を捨ててまで、おれとの男の勝負のためにフェザーから下りてきた場所なんだ。」

「棄権なんぞ、してみやがれ、おっちゃんとそこのでしゃばり女を叩き殺す。それくらいの力はまだ残っているぜ」

「リングには世界一の男、ホセ・メンドーサがおれを待っている。だから、——行かなくちゃ」

「なんにもいわず、まっ白な灰になるまでやらせてくれや。なあ、おっちゃん……」

「燃えつきたぜ、まっ白な……灰にな」

「これもらってくれ。あんたにもらってほしいんだ」

■呼び名

矢吹丈のことを、知人たちは親しみをこめて、"ジョー"と呼んだ。

プロボクサーとなってからは、その激しいファイトで、スポーツ記者から"野生の喧嘩屋"と命名され、その後、対戦者のなかに怪我人が続出するにおよび、"地獄からの天使"とも呼ばれ、ボクシング関係者からおそれられた。

■両親

警察から脱走、ドヤ街の子どもたちを監禁し、鑑別所に送られたジョーは取調べ室で心理学者の富岡先生の「両親という言葉のイメージは？」という問に、即座に「無責任」と答えた。

そして家庭裁判所で下された判決でも、「もの心がついたときには養護施設に引きとられ……」という文面がある。

ジョーは生まれてすぐ、両親に捨てられ、養護施設に収容され、そこで育てられたのである。

■ジョーの星座

野生的な荒々しく激しい闘争心は、まさに獅子座のもの。ただし、つねにロマンを求める乙女座の性格もあることから、獅子座の第４ターム（７月17日〜23日）に生まれたと考えられる。

■幼年のころ

これも家庭裁判所での判決文で述べられていることだが、「養護施設を何度も脱走し、日本全国をわたり歩き……」とある。

ジョーは養護施設での、みせかけの愛情に嫌気がさし、脱走をくり返したのである。

■学校

少年院から段平のもとに届いたジョーの手紙はつたない。義務教育である中学校も卒業してないのかもしれない。でも、学校ではぜったいに学べない貴重な体験を、長い放浪生活の間にしている。

■体型

均整のとれた中肉中背型。しまった筋肉質で、全身がバネといった感じだ。

プロボクサーとしてデビューしたころは、バンタム級の理想的体型だった。それが、その後成長して、東洋バンタム級チャンピオン、金竜飛に挑戦するときには、身長が６㌢伸び、体重が３㌔ふえ、バンタム級のウェイト制限（112〜118㍀）を大幅にオーバー。彼は地獄の減量に苦しんだ。

が、その減量のあとは、ほぼ117〜118㍀をキープするようになった。

■ばつぐんの記憶力と反射神経

鑑別所に収監されたとき、段平はジョーに"明日のために"というボクシングテクニックを教えるハガキを送っている。

ジョーは、それを一回読んだだけで破りすてるが、その内容を記憶。雑居房の大ボス、西寛一を倒すのに、利用した。

このように、ジョーはばつぐんの記憶力を持っていて、野生的な闘争心を力強く支えている。

ジョーがボクシングの世界で大きくはばたけたのも、この三つがそろっていたからだ。

■長い髪

ジョーはスポーツ選手として珍しく、長く髪を伸ばし、額にばさっとたらしている。

それは、たぶん放浪生活を送っているとき、ほとんど一文無しで、髪を手入れする余裕がなかった。それに、彼は慣れ親しみ、トレードマークにするようになったのだろう。

野生的に輝く瞳とともに、ジョーのチャームポイントの一つ。

■野心

「ジョー、おまえはボクサーになるんだ。おれと組んで拳闘をやるんだ」という段平の熱意に、丈は泪橋の下の段平の寝所でいっしょに住むようになった。

段平がいる間は、ボクシングのトレーニングをするふりをした。そして段平が生活費をかせぐため、働きに出ると、近所の子どもたちを引きつれ、かっぱらい、万引などの悪事をくり返した。

ジョーは、こういった生活を送りながら、こつこつとお金をためていった。彼には大きな会社をつくり、自分が社長になるという、大きな夢があったのである。

ジョーの一日

●6時・起床
柔軟体操
ランニング
（人気のない街なかを最低10キロ。路地から路地へ。舗装してある道は堅すぎてロードワークには不向き。）

●7時
縄跳び、腹筋、背筋運動といった基礎訓練を消化。

●8時30分
シャワー、洗面

●9時
朝食
（トマトのサンドウィッチが多い）

●10時
林屋食料品店に臨時アルバイト。

●夕方
ランニング

●夕食
夕食後、本格的なボクシングの練習に入る。
ウォーム・アップ10分
シャドー・ボクシング
ダミー・アタック（サンド・バッグを叩く）
パンチング・バッグ
なわ跳び、体操

●10時・練習終り
シャワーをあびて

●10時半・就寝
これが標準的なジョーの一日である。
ただし、試合が近づいてくるとこの日程は、たえず大幅に狂うのだ。

■服装

ジーンズ地のスラックスとサファリコート、同じ布地の帽子、ベージュのＴシャツかトレーナー、それに古い皮のドタ靴。これがジョーのスタイルだ。

養護施設にいたころ、支給されたもので、丈夫で活動的な点が気に入り、彼はつねに着るようになった。

同じ色、型の服をもう一、二着持っていて、汚れると着がえる。

ただし、ジョーは服装にはほとんど頓着しなかった。有名になって金をかせぐようになっても、他の服装をすることはなかった。

■酒・煙草

「のんべえってのは、なにより虫がすかねえんだ」

ジョーがドヤ街で段平と出会ったとき、段平を相手にしなかったのは段平が酔っていたからだ。酒は大嫌いで、よほどのことがないと飲まなかった。

煙草はまったくすわなかった。

■趣味と実益

ボクサーになる前も、そしてプロボクサーとして大活躍するようになっても、暇があるとパチンコ屋に出かけていって、玉をはじいた。ほとんど負けたことがないほど、得意だ。

調子がいいときには、一日に数千発取る。よく出る台を見わける動物的カンがあるようで、この特技は放浪中の生活を支えたようだ。

景品は、お菓子、かんづめなど、食料品がほとんど。それをドヤ街の子どもたちに配るのを楽しみにしていた。

■注射嫌い・医者嫌い

東洋タイトルマッチに勝利したあと、ジョーは精密検査のために入院するが、その日のうちにスタコラ逃げ出してしまう。

ジョーは、注射が苦手で、医者が嫌いだった。

ただし、怪我や病気に対してばつぐんの回復力があり、寝こむことはまったくない。

■食物

好き嫌いはなく、何でも食べる。が、分量はあまり多くない。

トマトをはさんだサンドイッチが特に好きだった。

明日のために

●その1
攻撃の突破口をひらくため、あるいは敵の出足を止めるため、左パンチを小刻みに打つこと、この際、肘を左脇の下から離さぬ心がまえで、やや内側を狙い、えぐりこむように打つべし。正確なジャブ三発に続く右パンチは、その威力を3倍にするものなり。

●その2 **右ストレート**
右ストレートは右拳に全体重を乗せ、まっすぐ目標をぶちぬくように打つべし。

●その3 **リングに上がる際の心がまえ**
拳闘のリングに人間味など、かけらほどもいらん、必要なのはファイテング・マシン、つまり、とことん闘い抜く——非情な機械に徹した者のみが勝利を握るんだ。

●その4 **ボクシングの生命はスナップだ**
手首を鍛えること、スナップを強くすれば、クロスカウンターもほかのパンチも威力倍増し、それがきめ手にもつながる。

●その5 **フットワーク**
フットワークは、ボクシング全体の動きの60%をしめているといわれる程、重要なのだ。

●その6 **スウェーバック**
カバーリング等の防御技術。

●その7 **孤独との戦い**
ボクサーほど孤独な存在はない敵へのおそれ自分への不安、どんな名セコンド、名コーチがついていようとリングへあがった時からひとりになる。

(注) このあしたのためのトレーニングは⑮まであるが⑧以降は公開してもらえなかった。＊その⑧から⑮までを予想する。
●距離のとり方 ●クリンチング
●インファイティング(至近距離でショート・ブローの打ち合い)
●フェインティング(ある所を狙うとみせて他をうつこと)
●ドローイング(相手にスキをみせて誘いこみ有利な体勢にもちこむ)
●連打攻撃 ●ウェート・コントロール ●ロープの使い方

■パンチドランカー

打たれ強いボクサーや体あたり戦法を得意とするボクサーは、パンチドランカーになりやすい。
ジョーも東洋タイトルマッチに挑戦するころから、パンチドランカーの症状が出てくる。東洋バンタム級チャンピオン防衛戦で、ハワイに遠征したときには、すでにまっすぐ歩けないほど、症状は進んでいた。
ジョー自身、「以前から薄々知っていたさ、自分の体だもんな」と、ホセ・メンドーサとの試合の直前に葉子に言ったように、それを自覚していた。が、闘い続けるという気力が、ドランカーの症状をしのいでいたのである。

■玉姫公園

力石徹がリング上で死んだとき、カーロス・リベラの記憶喪失の話を聞いたとき、そして顔面攻撃ができなくなったとき、ジョーはきまって玉姫公園に行く。
そしてふだんでも、時々ジムを抜けだしてぶらっと玉姫公園に出かける。そこでぼんやりと暇をつぶすのだ。
ジョーは、そこにいると何となく心が安らかになるのを感じていた。

■ボクシング観

紀子の、ボクシングだけの青春なんてつまらないだろうという問に対し、ジョーは明るく答えた。
「拳闘をやるのは、好きだからこそなんだ。血だらけのリングの上ではな、燃えるような充実感を何度も味わってきたぜ。ほんの一瞬にせよ、カアッと真っ赤に燃えあがるんだ。そしてあとには真っ白な灰だけが残る……」
その言葉通り、ジョーはボクシングにすべてをかけた。そして世界最強の男、ホセ・メンドーサとのタイトルマッチで完全燃焼し、真っ白な灰になったのである。

■免許

丹下ジムが新築されたとき、林屋から中古のバンを譲り受けている。ジョーはそれを運転した。
ドヤ街にやってきたころは、まだ自動車免許を取れる年齢ではなかったし、その後も取得した様子はない。無免許で、運転していたのである。

■得意技

ジョーは技術を理論より体で覚えていくボクサーだ。
打たせて打つクロスカウンター、それを上まわる破壊力のトリプル・クロスカウンター、ロープの反動を利用したカンガルーパンチの三つの攻撃と、両腕をぶらりとたらして変幻自在に相手の攻撃をふせぐノーガード戦法の防御だ。

■ファイトマネー

ジョーのファイトマネーは、東洋タイトルマッチのときで、150万円以上。人気ボクサーだから、ギャラも急上昇していった。
しかし、ジョーは相変わらずジムに寝泊まりし、服装も前のまま。お金にはとんど執着しなくなった。ボクシングには金銭では買えない男のロマンがあったのである。

■友情

ジョーがバンタム級で大活躍できたのは、力石徹、カーロス・リベラのようなライバルがいたからだ。
強者同士の血みどろの死闘の中から、彼らには熱い友情のむすびつきが生まれた。それがつねにジョーの心の支えになったのである。

■ダウン

「立ッテクル……何度倒シテモ立ッテクル……」
偉大なチャンピオン、ホセ・メンドーサが恐怖を感じるほど、ジョーはダウンを何度奪われても立ちあがった。
打たれ強いというより、不屈の精神力と闘争心がそうさせたのである。

かったジョーのすべて!

〈ジョー語録〉

「孤児院じゃ、おまえを愛するが故に、とかなんとかもっともらしい院長のお説教がはじまると、きまっておれは居眠りしたものさ」

「これほど誰かを憎い、と感じたことはない。生まれて初めてだぜ」

「お嬢さん、逃げるのかい」
「試合は、まだ終わっちゃいないぜ」

「忘れたのか、おっちゃん、泪橋を負け犬の涙じゃない、厳しい精進の涙で逆に渡れといったのは、どこの誰だっけ」

「橋がなければ、おれたちの手で橋をかけりゃいい」

「おっちゃん、なんかこう眩しいねえ」

「やってみるか。……おっちゃん、有難う」

「あそこで、とどめのアッパーとは……まいったぜ力石」

「二人が力の限りに打ち合ったパンチは、しぶかせ合った血煙りは、そんじょそこらの百万語のべたついた友情ごっこにまさる、男と男の魂の語らいだった。……そう友だちだったんだ、あいつは、おれにとってかけがえのない　」

「落ちるのは、ここまでさ、いまやっと、リングへ戻る決心がついたよ」

杉野昭夫が描くジョーの世界
Illustrated by Akio Sugino

矢吹 丈
全成績表

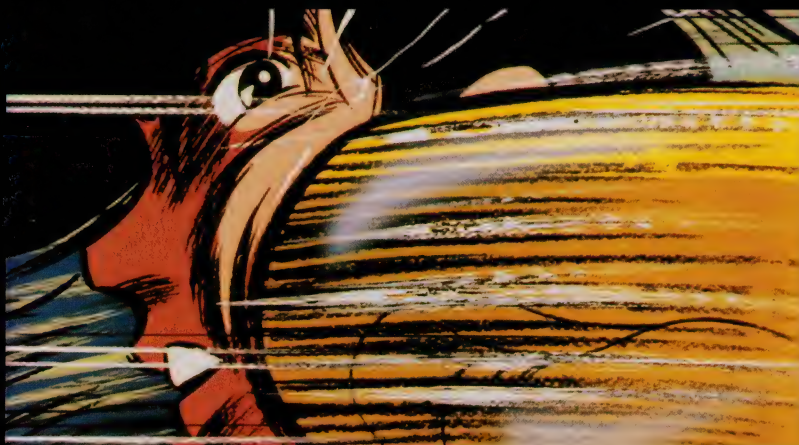
	日時	対戦相手	場所	勝敗	決め手
		アマチュア時代の記録			
15才	8月（真夏のあつい時）	力石 徹	少年院野外リング	2R両者KOによる引分け	クロスカウンター
	10月頃	松本	〃	KO勝	不明
	11月頃	青山	〃	3R TKO勝	対戦者の[illegible]
	12月頃	力石のいない第一寮の選手	〃	KO勝	ラッ[illegible]
		プロテストの実戦			
	6月中旬	国体準優勝の稲垣	不明	2R KO	
	7月第2日曜	不明	〃	多分KO（又は圧倒的大差）	
		プロでの記録			
16才	8月初旬	村瀬武夫	後楽園ホール	1R 2分47秒KO勝	クロスカウンター
	9月3日	沢井清二		2R KO勝	
	9月31日	遠山充造		KO勝	
	10月	沼川洋一		KO勝	
	10月	野口講一		KO勝（又は圧倒的大差）	
	11月	ウルフ金串	後楽園ジム	3R KO	トリプルクロスカウンター
17才	4月中旬	力石 徹	〃	8R KO負	[illegible]パー
	8月中旬	殿谷浩介	後楽園ホール	1R KO勝	ボディブロー

この間対戦相手が不明ながら
7戦全勝

	日時	対戦相手	場所	勝敗	決め手
		タイガー尾崎		2R TKO負	
		原島 龍		3R TKO負	
18才	新春	南郷		1R TKO負	
	11月	カーロス・リベラ	後楽園	エキジビション 4R 引分け	
	12/31	カーロス・リベラ	後楽園スタジアム	10R 引分け	
19才		ウエスマン・ソムキット		1R 1分6秒KO勝	
		金 敏腕		4R 1分35秒KO勝	
20才		エディ・ベイセラー		6R 2分40秒TKO勝	
		タニー・アロンゾ		2R 2分54秒KO勝	
21才		金 竜飛		6R KO勝	
		ピナン・サラワク		2R 予告KO勝	
		ハリマオ		4R KO勝	
		ホセ・メンドーサ		15R 判定負	

28戦、21勝5敗、2引分け

「逃げないわ、もう……この試合……

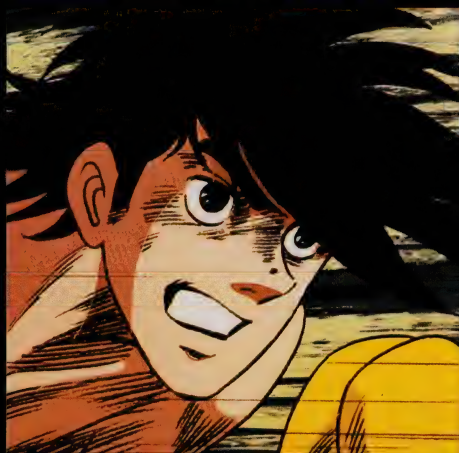
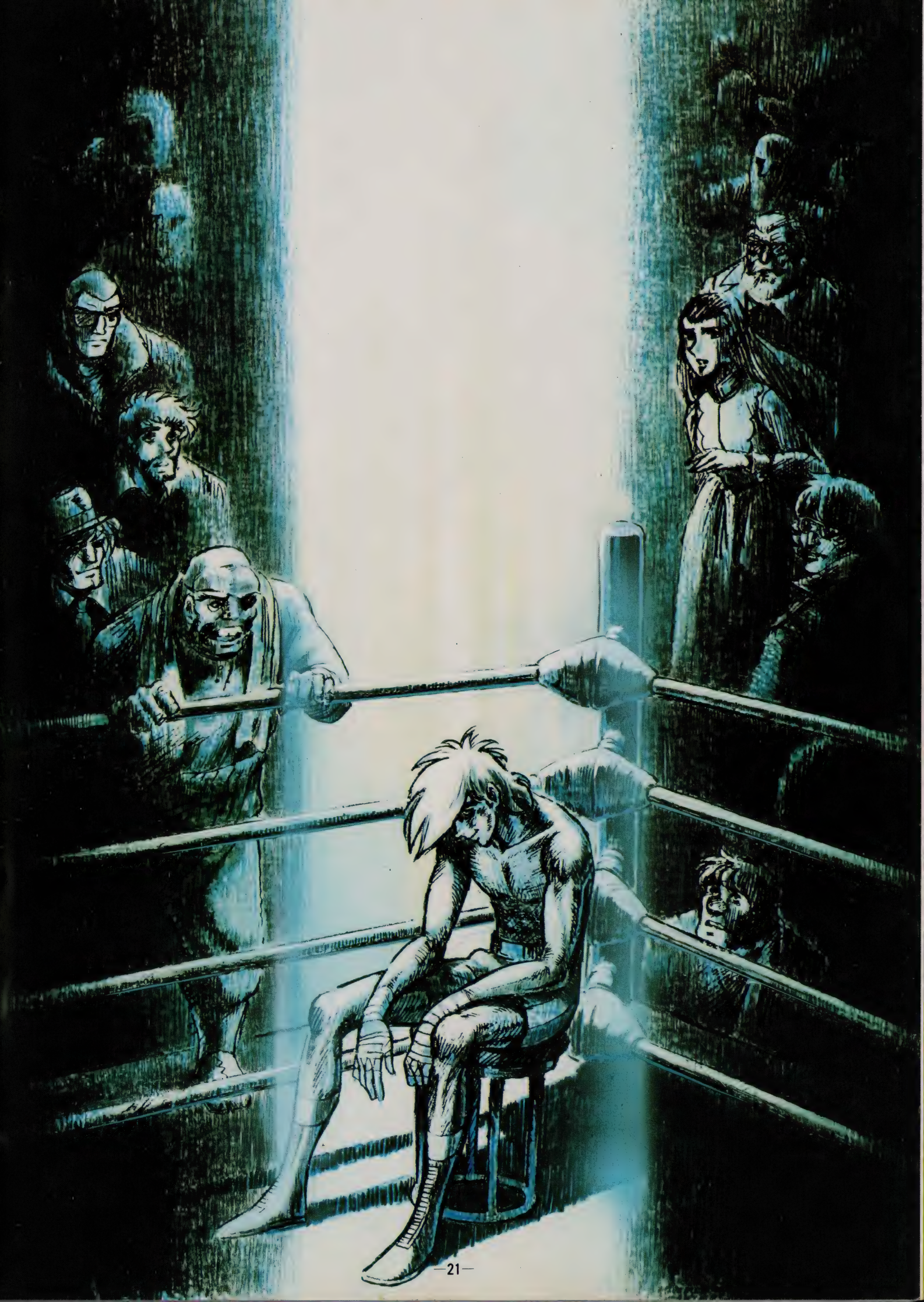
これからさき、どんな結果が待ちうけていようと、もう、わたしは、けっして逃げたりはしない！」

青春という名の坂道を
疾風のように駆けて逝ったジョー
眩しいばかりに、キラキラと
君は輝やいていたよ。

怒った時、笑った時
泣いた時、困った時
テレた時、すねた時

どんな時でも、君は輝やいていた。
どんな時でも、君の顔は一つだった。
どんな時でも、ゴールが見えている
そんな顔だった。

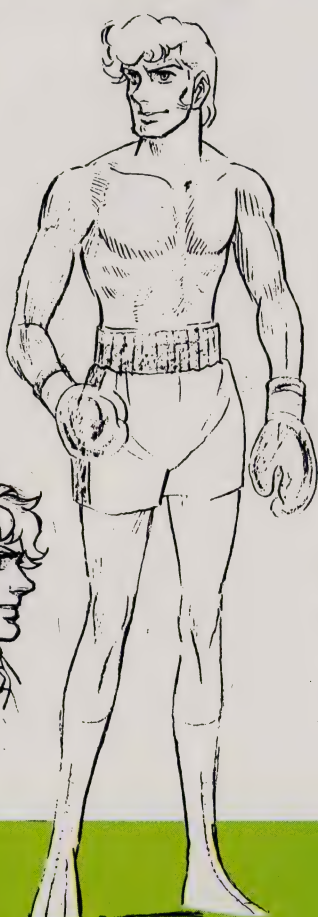
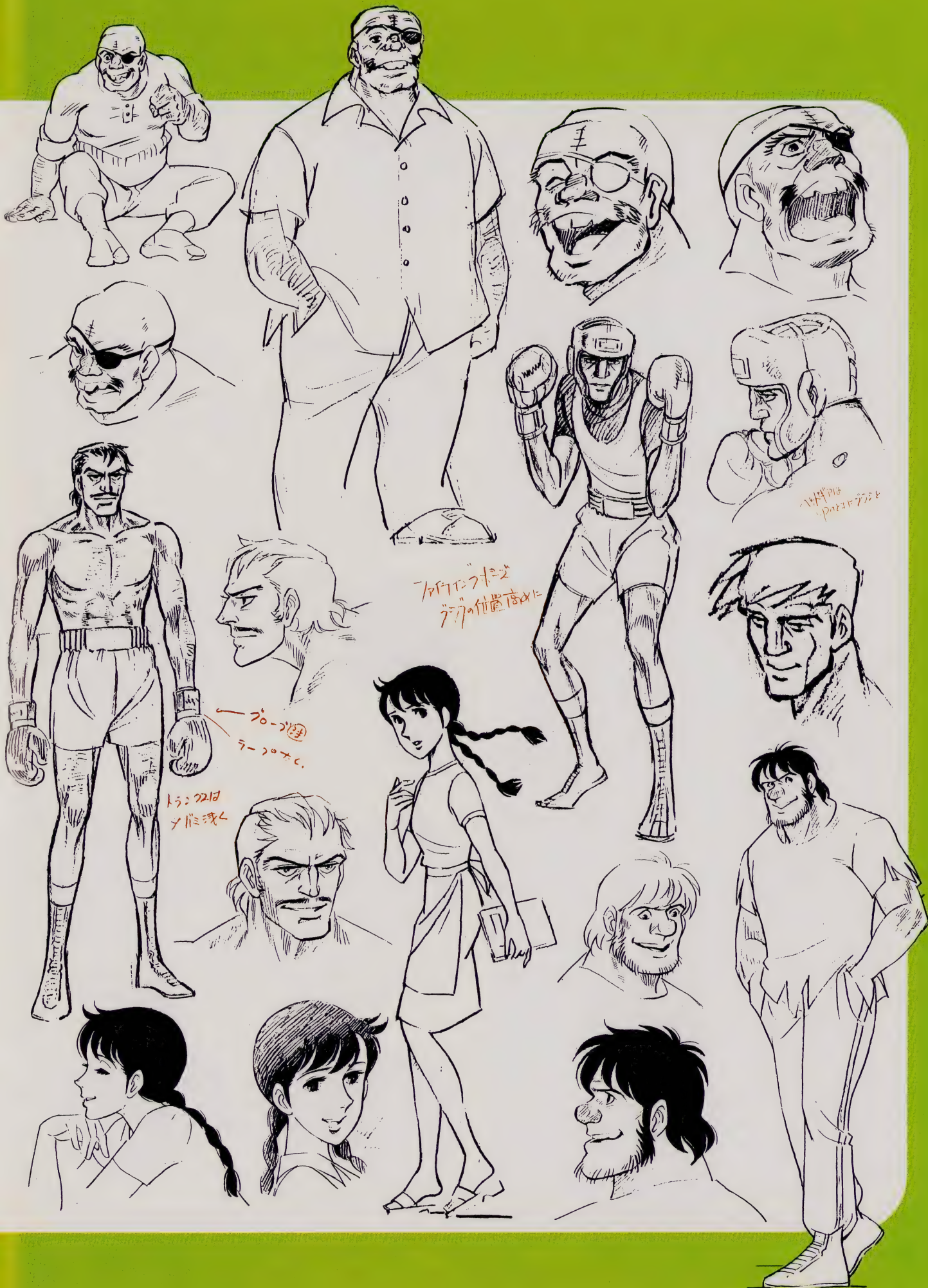
君の目は、みせかけを見抜く。
君の目は、嘘を見抜く。
そして、それを許す目だ。
時として、君の一途さは
私たちを息苦しくする。
今は、その息苦しさ、さえ
なつかしい。

君と燃えた、君と泣いた
君と笑った。君と闘った

多くの青春に、その日々に
あゝ別れを告げるのか…

「あしたのジョー」ディスコグラフィー
シングル
歌：おぼたけし
ORF-113
54.12.15
歌：スザンナ・スー
ORF-110
54.9.1
歌：シミズヤスオ
ORF-111
55.1.1
歌：おぼたけし
ORF-128
55.10.1
歌：荒木一郎
ORF-1001
56.4.1
歌：ジョー山中
ORS-1002
56.6.1
ORF-6001～2
55.12.1
ORF-8001
56.7.1
LP
ORF-5006
55.3.1
ORF-5007
55.4.1
ORF-5011
55.10.5
カセット
12COF-106
55.10.5
24COF-101
55.12.1
12COF-102
55.3.1
12COF-103
55.4.1
12COF-8001
56.7.1
子供枕 森文
Tシャツ
コモ企画
ソックス
岡本
サスペンダー
西村繊維工業
JOE YABUKI
TOMORROW'S JOE
スポーツタオル
ハンカチ 中西
ボクシンググローブ
ミツワ
ジョーの
ハンカチ
ハンカチ
グローブホルダー
TOMORROW'S JOE
シール
パンチング
ミニパンチ
トミー
フィルムしおり
B5ノート
B5ノート
ステッカー
ヘラルド・エンタープライズ
下敷
スケッチブック
ミニカード
天田印刷加工
ぬりえ
セイカノート

ペントレー
対戦カード
レターセット
ペンケース
B5ノート
ポスターB
ヘラルド・エンタープライズ
ポスターA
ラミネートカード
パスケース
ヘラルド・エンタープライズ
パスケース
下敷 A
下敷 B
ヘラルド・エンタープライズ
カタログ
身のまわりを、ジョーのもので囲んでみた、それでも淋しさは消えない。それでも、やっぱり囲まずにいられない 私たちのジョー…
コーヒーカップ
茶わん 金正陶器
湯のみ
ビーチサンダル
フジトンボ石川
1973年6月連載終了号
1966年連載開始号
絵ハガキ
文庫本
講談社
ビニールバック
丸信バック工業
アニメコミックス
講談社
ショッピングバック
ヘラルド・エンタープライズ
ショッピングバック
小説あしたのジョー
ヘラルド・エンタープライズ
テレビアニメコミックス NTV出版

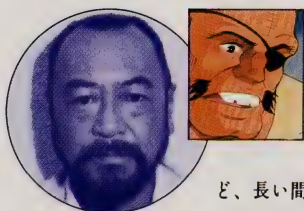
屋外では コート着てます
エリ
たててる感じ
スカートの長さは
ひざの中間くらい
カミの毛にも
カゲつけて下さい。
ヘッドギアには
ブラミ入れて，カゲなし
ブラミ
カミの毛にクセと
ボリュウムをつける

ファイティングポーズ
グラブの位置高めに
グローブは(注)
テープ巻く。
トランクスは

あしたのジョー2 スタッフ／キャスト表

（矢吹 丈）
あおい輝彦

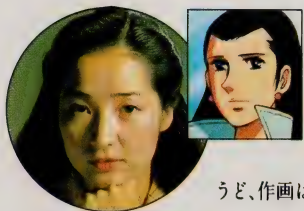
テレビ、映画、10年以上にもなるジョーとのつき合いは長いようで短かった。 ジョーの純粋さ、野性、すべて大好きだ。ジョーは男の闘争心とロマンだけで生きてきた。ジョーにいろいろ教えてもらった。いまや、僕とジョーは親友の間柄、「あしたのジョー」は終っても、永遠に心の中に生き続けるだろう。
最後に、原作者の高森（梶原）さん、ちばさん、それにテレビ、映画のスタッフの方々、ずっとジョーを応援してくれたファンの人たち、ありがとうございました。

（マンモス西）
岸部シロー

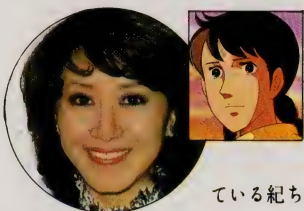
むかしから、むちゃくちゃに「あしたのジョー」の大ファンであった。バンドをやっていた頃にも、楽屋で仲間と本の回し読みをやって、毎週発売日が待ち遠しかったほどである。走馬燈のように昔が思いだされる。僕のモサッとしたところが、西にピッタリで前作に続いて、今回も起用されたのだと思う。が、もしも、もしもである、ありえないのだけれど、また「あしたのジョー」がつくられるとしたら、今度はあおい輝彦さんを押しのけて、ジョーを演じてみたいものである。

（丹下段平）
藤岡重慶

涙もろくて、弱くて、ジョーがいなければなにもできない男。この映画で段平自身である俺も燃え尽きてしまう感じだ。あおい君も同じじゃないかな。ま、これ以後ジョーはつくられないから安心だけど、長い間、自分の役者生活を左右した、愛情のある段平の役は誰にもわたせないよ。
いずれにしても、「あしたのジョー」に出会ったことが最高に幸せだった。これもあおい君とのコンビだからできたのだと思う。

（カーロス・リベラ）
ジョー山中

アフレコは初めて、むずかしいね、なかなか慣れないよ。原作も読んだし、ボクシングもやっていたから、ジョーやカーロスの気持ちは良くわかる。カーロスの天真爛漫さ、キザッぽいところ、まったく俺と反対なんだけど、俺は俺なりに一所懸命に演じてみた。ヘタはヘタなりに、個性がでればと思っている。
一方で、俺は主題歌も唄っている。ジョーの人間的な喜びや悲しみを狙った。ジョーへ捧げる鎮魂歌さ。

（白木葉子）
檀　ふみ

「リングでよ、世界一強い男がオレを待っている………だから……いかなきゃな……」画面は動いていなかった。荒いモノクロのスケッチだけが、カットごとに現われては消え、セリフのきっかけを示してくれた。ちょうど、作画は追い込みの段階だったのだ。それでも、ジョーの静かな顔が見えるようだった。葉子の肩にそっとかかるジョーの手が見えるようだった。そのシーンを終えたとき、私自身の肩にジョーの手のぬくもりが、残っているような気がした。一瞬、私はジョーの恋人であった。

（紀子）
藤田淑子

紀ちゃんは、明るくて、かわいくて、やさしい女（ひと）。その紀ちゃんが、自分と生いたちも性格も違う白木葉子と一人の男を愛する。それだけ、ジョーって魅力的な人なんだと思う。映画のテーマを語っている紀ちゃんとジョーとの会話のシーン、彼女はひとつの賭けだったと思うの。ジョーの激しい生き方についていけなく、自ら去って行く。私だったら徹底的にすがっちゃうけど。でも、紀ちゃんの気持ちを思うと、つらくなってしまうのもわかるわ。

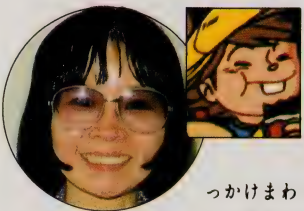
（ホセ・メンドーサ）
岡田真澄

アフレコは初めての経験、緊張してスタジオがリングみたいだった。私は自分じゃない人物を演じるのは、客観的に人物の評価ができるから好きだ。自分はホセ・メンドーサではないけれど、ある意味で完全主義者的なところがある。原作者がホセ役はピッタリだといったらしいけど、感覚や執念は理解できるし、似ているかもしれない。
ホセ役も、やるからには最高にいいものをと演じたつもり、期待して下さい。

（サチ）
白石冬美

サチの声は、テレビ、映画とすべてに参加している。いま思えば、私が声優を始めた頃、昔が懐しい。最初からジョーに関係しているのは、あおいさん、藤岡さんと私だけじゃないかしら。サチのおさげ髪、ゲタ、男まさりのところ、みんな大好き。それにジョーって、めちゃくちゃに好き。優等生じゃないのが最高にいい。タイトルにもロマンがあるし。
最後に、サチも女、私も女、ずっとジョーに恋をしていたの。

（力石 徹）
細川俊之

私が扮するジョーの仇敵で親友の力石徹は、すでに死んでしまった男なのですが、前半、何回も回想シーン、幻影となって、ジョーを苦しめたり、励ましたりします。僕は一般的には、甘い声で通っています。ファンの人たちは、本当にあのクールで激しい情熱を秘めた力石徹の声ができるのだろうかと心配なさったと思います。でも、安心したでしょう。実際、私には力石のそんな性格が合っているのです。

（キノコ）
堀　絢子

ジョーが持っている天性の明るさ、底力、ふっきれた強さ、そんなジョーに憧れ、弱いくせにいきがっているキノコ。子供達のなかでは、タローを親分とあがめて、いつも金魚のフンのように後を追っかけまわしている。だが、サチには弱く、口だけでなく腕力でも簡単にやられてしまう。
誰でもが、こんなキノコのような頃があったはず。私も、もっともガキらしいキノコを演じて、昔の子供時代を思い出しています。

私、「あしたのジョー」が好きで好きで、原作も全巻持っているし、テレビも映画も見たの。なんとかジョーと関わりを持ちたいと思っていた時にこの映画の話、もう、自分からヤリたいヤリたいとデモンストレーションしたのよ。チョッとでも、ジョーに参加できたことが、最高にうれしい。
ジョーに恋をしている私、ジョーみたいな男性が自分の前に現われたら、すべてを捧げたいわ。

（チュー吉）
つかせのりこ

2度目の参加。トン吉は、いつもタローやサチ、チュー吉と一緒、どこにでもついて行ってしまう。それに、無口で自閉症的な子供。話したかと思うと、突拍子もなく、うめき声、奇声をはっする。それだけにアフレコでは、目立ってはいけないしと思い。大変にむずかしかったわ。
純粋な心とあたたかさを持ったジョーに、トン吉をはじめ、みんな惚れた。ジョーは燃え尽きてしまっても、トン吉の心に、私の心に充分に焼きついています。

（トン吉）
丸山裕子

ジョーを一途に憧れているガキ大将。根性むきだしのジョー、強い選手を次々にやっつけていく。タローにとっては魅力だらけ。もちろん私も。身近な生活環境のなかにいるジョー、俺も強くなりたい、ジョーのようになりたいと、ジョーにピッタリとしがみついている。同じように私も思っている。ジョーの怒り、嘆き、悲しみを、ジョーと共有しているこんなタローの気持ちになりきりました。
世界チャンピオンにまで挑戦するジョー、頑張れ！

（タロー）
肝付兼太

ジョーのような野性味のある好敵手を世界に求め歩いている男。人間的にはジョーと同質、段平とジョーの間柄に似ていて、カーロス・リベラに一番愛着を持つ。
私も含めていまの人たちは、ジョーやカーロスの野性をなかなか持ちえない。また厳しく自分に対決している人も少ない。だからジョーの生き方に憧れてしまう。
この作品がジョーの最後の映画、愛するジョーがどこへ行ってしまうのか心配だ。

（ロバート）
池水通洋

不可抗力で父を殺してしまった体験で、まったく感情を持たない、氷のように冷たい金竜飛。〝舞々（チョムチョム）〟という必殺技でジョーを苦しめる。そんな金を演じるのは、大変だった。それも声だけでなのだから。ま、私もこの世界ではクールな男として、つとに有名(?)であるから、イメージ違いということはないけれど。とにかく、昔から「あしたのジョー」の大ファンであった私が、ジョーと対決する役柄をできたなんて夢のようである。

（金 竜飛）
古川登志夫

スタッフ

製作総指揮	梶原 一騎
製作	川野 泰彦
監修	ちばてつや
原作	高森 朝雄 ちばてつや
プロデューサー	島田十九八
監督・脚本	出﨑 統
作画監督	杉野 昭夫
録音	瀬川 徹夫
美術	小林 七郎
撮影	高橋 宏固
編集	鶴渕 允寿
助監督	竹内 啓雄
音楽監督	荒木 一郎

主題歌（「あしたのジョー2」テーマ「青春の終章(ヒリオド)」）＝
作詞・作曲・唄……ジョー山中

原作＝「あしたのジョー」（講談社刊）
小説＝「あしたのジョー」（ヘラルド出版刊）
サントラ盤（オレンジハウスレコード）

カラー長編アニメーション
製作／三協映画■ヘラルド・エンタープライズ
富士映画■ちば企画
製作協力／東京ムービー新社　配給／日本ヘラルド映画

キャスト

矢吹 丈	あおい輝彦
丹下 段平	藤岡 重慶
白木 葉子	檀 ふみ
ホセ・メンドーサ	岡田 真澄
力石 徹	細川 俊之
マンモス西	岸部シロー
カーロス・リベラ	ジョー山中
林 紀子	藤田 淑子
サチ	白石 冬美
キノコ	堀 絢子
チュー吉	つかせのりこ
トン吉	丸山 裕子
タロー	肝付(きもつけ) 兼太
ロバート	池水 通洋
金 竜飛	古川登志夫

「あしたのジョー2」のテーマ

燃える 燃える 燃える 俺の心が
血と汗にそまった 白いマットに
俺の青春は戦いの道
まばゆいライトに浮かんだリングを墓場と決めて
泪橋を渡って来た俺さ
この拳にかけた あしたを俺は信じて

燃える 燃える 燃える 俺の魂
マットに沈んだえものの姿に
俺の青春は傷だらけの叫び
ぶちのめされても あしたに向かって立ちあがるだけ
泪橋を渡って来た俺さ
この拳にかけたすべてを 俺のこの手で

燃える 燃える 燃える 熱い血潮が
冷たく孤独なゴングの音に
俺の青春は四角いジャングル
飢えも乾きも耐えてリングにたたきつけるだけ
泪橋を渡って来た俺さ
この拳にかけたすべてが燃え尽きるまで

作詞・作曲／ジョー山中

青春の終章（ピリオド）
~JOE…FOREVER~

Hey Joe I'll remember
Joe I'll remember
自分を信じて戦う姿は
今も心の中に
I'll remember you forever
I'll remember you forever

Hey Joe I'll remember
Joe I'll remember
憎しみも愛もすべてをこぶしに
かけた男の姿
I'll remember you forever
I'll remember you forever

Hey Joe I'll remember
Joe I'll remember
戦いの中で燃えつきた姿は
今も心の中に
I'll remember you forever
I'll remember you forever

作詞・作曲／ジョー山中

企画／編集：ヘラルド・エンタープライズ株式会社　発行：松竹株式会社事業部　レイアウト：ヘラルドエース
定価450円

あしたのジョー2